



NAKANIHON AUTOMOTIVE COLLEGE

# 学友会 会報

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301  
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

第24号

URL ▶ <http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail ▶ [gakuyu@nakanihon.ac.jp](mailto:gakuyu@nakanihon.ac.jp)

## 「四国EVラリー04」報告

2004年8月20日(金)から22日(日)の3日間開催された四国EVラリーに学友会が参加したので報告します。1998年に第1回大会が行われ、それ以来四国4県が持ち回りで行なっている大会です。

昨年は主催校の高知工科大学と公道を使用し開催され、41チームが参加しました。クラスは4種類あり、その中で「カテゴリー3…ミニカー、小型特殊自動車、単車サイズの電気自動車」のクラスにエントリーしました。使用した車両は学友会35周年記念事業で製作されたソーラーカーです。

競技は4種目で、今回はロングディスタンスとエコタイムラリーへ出場しました。ロングディスタンスは、2日間行われ6時間(1日3時間)の持ち時間で、設定されたコースを走行し完走すればポイントが獲得できるというもので

す。エコタイムラリーは、設定されたコースを制限時間内に走行し、そのときの燃費を計測するものでした。

ロングディスタンスは公道を使用した競技のため、渋滞や信号で思うように走行できませんでした。しかし、2日間で153km走行し、195ポイントを獲得することができました。エコタイムラリーも公道を使用した競技でしたが交通量の少ない場所でした。燃費を考えながら走行した結果44.10km/Lでした。すべての競技を終わって結果を見ると、2つの競技で優勝することができ、これは予想以上の結果で喜びと同時に驚きました。

この大会に出場するにあたり協力してくださった皆様に感謝の意を表します。



ピット作業



スタート



チェックポイント

## 会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学 学友会会長 丹地章夫



健康で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十七年度の事業計画も順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

さて、皆様方もすでにお気づきのことと存じますが、中日本自動車短期大学の創立者である故神野浅義先生の銅像が、我が校にこれまで建立されておらず、諸先輩方より、その件に関する希望は何つてありました。

この度、皆様方のお力添えによりまして、大変立派な立像を建立する運びとなりました。

そして四月吉日、多数の来賓の御臨席のもと盛大な除幕式を挙行することができ、学友会と致しましても永年の夢が叶い、協力することができましたこと、心より嬉しく思っております。皆様にも、その旨お伝えすることができ、安堵の思いでいっぱいです。

皆様方も近くにお越しの節は、事務所正面のフロアーに威風堂々と立っておられる先生のお姿を、

是非見にお立ち寄りください。

自動車業界も長い長い低迷の時にあり、このような厳しいときこそその時代をどう生き抜いたかによって後々に大きな影響を与えること、基本を大切に精神的成長を図りたいといった言葉が十年も昔のこととなってしまいました。あれから世の中は多少でも好転しているのでしょうか。新聞を開けば、毎日毎日思いもかけない出来事が氾濫している現状です。でも、こんな時代でも人は常に前向きに生きていかなくてはなりません。今こそ、人と人、心と心のつながりを大切にしなければと思いませんか。

さて、学友会の重要事項は支部設立であると常々言ってまいりましたが、設立された支部が細く永く息の長い支部となるよう支えていくことも、また大切な事業です。何事も焦らず騒がずが大切です。尚、学生募集、学生の就職につきましても、皆様の御協力を重ねてお願い致します。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、御援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄、特に学内在籍のOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

# ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 脇 俊 隆



学友会々員の皆様、毎日お元気に過ごしていることと存じます。いつもながら、皆様のご支援、ご協力を戴き大変感謝しております。

本学は、2007年に開学40年を迎えにあたり種々の事業計画を検討しております。具体的計画案が紹介できる時期になりましたら改めてご紹介申し上げます。

今回は、本学の近況を少しご紹介申し上げます。

## (一) 教育取組

本学は昨年4月に専攻科自動車工学専攻を1級整備士養成課程に変更しました。第1期生は、3名です。また、専攻科車体整備専攻は、20名定員から40名定員に増員しました。これは、専攻科教育の特徴を一層明確にしたものです。

## (二) 国際化への取組

(1) イタリア国立フェラーリ工業専門学校と本学の短期交換留学協定

毎年、本学学生とイタリア国立フェラーリ工業専門学校生が2月

(本学と六月(フェラーリ校生)にそれぞれ交換留学を行っています。)

(2) 中国協定校の教育指導者短期研修

毎年、湖北汽車工業学院、青島高級職業学校、武漢汽車工業大学及び山東交通学院の自動車系教育者を受け入れ、自動車整備技術教育の研修(約3ヶ月)を行い国際交流に寄与しています。

(3) アジア系留学生及び研修生の受入

本学は、1969年以来アジア系留学生を受け入れており、その取組は、開学以来引き継がれてい

ます。また、国際協力事業団からの受入も多数ありました。

現在は、この実績を踏まえ留学生同窓会の取組も進めています。

以上のことが着実に定着し成長すれば、本学の社会的評価が高まるのではないかと密かに期待しているところです。しかし、これら

を成功させるには、本学教職員の努力とそれを支えて戴いている学友会々員の皆様のお力が必要になります。どうか、今まで以上に増してご助力のほど宜しくお願いします。

# 活発な国際交流

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治



心よりお礼申し上げます。

今年度の自動車工業科の入学生は564名となりました。この中には32名の留学生も含まれています。毎年学友会の皆様にお願

いしております同窓生推薦入学試験には、51名もの応募があり、50名が入学しました。十八才人口が益々減少する中で、こうした皆様のお力添えに、教職員一同大変感謝いたしております。今後につきましても、絶大なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年4月には、学友会から多大なご協力をいただき、懸案でありました創設者神野浅義先生の銅像を、事務所正面のフロアーに建像することができました。

学友会の皆様、日頃は多大なご支援をいただき、誠に有り難く、

除幕式には大変多くのご来賓にご

参加賜り、ご来賓を代表して丹地学友会長からご挨拶をいただき、式を滞りなく進めることができました。学友会会員各位に重ねて厚くお礼申し上げます。

教育面では、6月から7月の中国協定校教員の研修生受け入れ、夏休みのヨーロッパ研修旅行、2月のイタリア国立フェラーリ工業専門学校への本学生の短期留学並びに6月の先方から本学への受け入れなど、国際交流が益々活発に行われています。

今後国際交流を進めていく一環として、2005年4月より、留学生別科を開設しました。定員

20名、1年課程の小さな規模ではありますが、留学生別科で日本語をしっかりと学んだ留学生が、自動車工業科へ進学し、卒業後は、母国の自動車業界で活躍されることを期待しております。

母校の設置学科は、自動車工業科、専攻科自動車工学専攻・車体整備専攻、留学生別科と益々充実し、同種教育機関には見られない特徴を備えた自動車短期大学となつてまいりました。

母校の近くにごられた折には、是非お立ち寄りいただき、母校の様子をご覧下さいますようお願い申し上げます。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。



丹地会長挨拶

# 1級自動車整備士取得

中日本自動車短期大学 高橋 正 則



近年の自動車電子制御に伴う更なる高度整備技術、環境保全や

リサイクル推進、ユーザーへの保守管理支援など自動車整備事業全体のサービスの高度化に貢献できる人材を育成するねらいから、検定制度が改定され平成14年12月に1級自動車整備士技能検定「筆記試験」が初めて実施されることになりました。

当時私は、史上初の技能検定ということもあり、自分自身の力試しの意味で受験することにしました。結果は辛くも合格することができました(3問の問題不適切による正解扱いも手伝い?)。筆記試験に合格したからといって即1級整備士というものではなく、「口述試験」そして「実技試験」に合格して資格取得となります。平成15年7月から岐阜県自動車整備振興会での1級実免講習を受講し、平成16年3月講習を修了して実技免除になりました。その後平成17年1月の「口述試験」に合格し、平成17年3月1級小型自動車整備士資格を取得しました。と書きますとスムーズに資格取得し

たかのように思われますが、2級整備士技能検定にはない「口述試験」が難関でした。平成15年1月、16年1月、16年5月と「口述試験」を受験しましたが、見事に?不合格。試験問題に悪戦苦闘した結果です。試験は「故障に関してお客様への問診」と「整備後の説明」で、普段の私の仕事内容にはないことですが、車に対して専門知識のないお客様に分かりやすく整備内容を伝え、それを理解してもら

える能力というのは、教育にも通じるころがあり、その後一から出直す気持ちで勉強しました。そして平成17年1月の口述試験で何とか合格することができ、1級小型自動車整備士資格を取得したというのが実のところ。資格試験に取組む中で自動車について知らないことの多さを痛感し、新たな知識を得る事に喜びも感じました。現在は、本科の「自動車検査実習」と自動車工学専攻科の「自動車電気電子回路」という科目を担当しています。本学の学生はこれから資格取得に挑戦するわけですが、私が受験した際に得たテクニックではなく、新たな知識を得る喜びが学生諸君に伝わればと思っております。

## 在学生より



専攻科 車体整備専攻 西野 帆さん

車体整備専攻科に入学して2ヶ月が経ち、本科の雰囲気とはまた違った専攻科の雰囲気にも、ようやく慣れてきました。本科の授業では、2級整備士合格を目標に自動車整備技術の基礎を中心に勉強してきたのに対して、専攻科では今まで勉強してきた知識をもとに、より実践的な整備技術を学んでいき、車体整備士という新たな目標に向かって勉強していかなければいけないので、まだ初心に戻ってがんばりたいです。

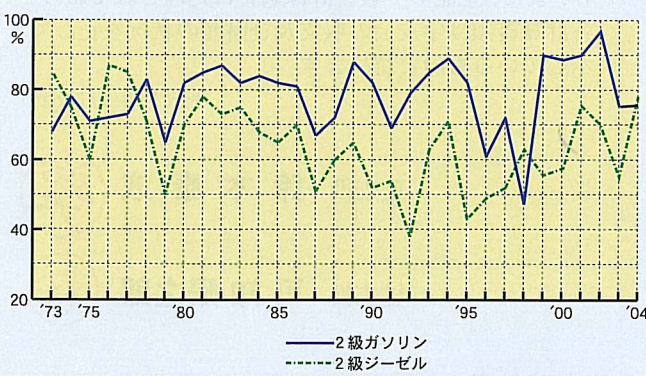
専攻科では実習が主体であり、本科のときと違い車に向かっている時間も長く、自分がいかなければいけないこともすごく多く、学園祭に向けて展示車両の製作にも取りかかっている大変ですが、自分が車を整備しているんだ、作ってるんだという実感が強く、とても充実した日々を送っています。卒業まで1年を切りましたが、残された時間、同じ専攻科の仲間たちと、共に学び勉強して、残りわずかな学生生活を有意義なものにしていきたいです。

## 登録試験の合格率

技術研修課

3月20日に実施された2級整備士登録試験の結果を報告します。今年度は第37期卒業の学生が受験しました。2級ジーゼルの合格率は78・9%となり、例年と比べ高い数値となりました。しかしながら、2級ガソリンの合格率は75・3%となり、直前合宿を1日増やして、合格率90%以上を目標として掲げ、試験に臨みましたが、目標を大きく下回る結果となっており、非常に申し訳なく思っております。前年度の反省を踏まえて、

【認定試験合格率の推移】



## 同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。皆さんのご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。くわしくは、同封資料をご覧ください。

## 編集スタッフより

学友会会報24号発刊にあたり、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

今年度は前期から登録試験対策を始め、必ず目標を達成するよう教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。最後に、学友会の皆様のますますのご活躍と発展を祈念いたします。

2003年度 収支計算書

2003年8月1日～2004年7月31日(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
<b>収 入 の 部</b>				
基本財産運用収入	36,000	9,712	26,288	15,900
会費・入会金収入	10,700,000	11,060,000	▲ 360,000	11,280,000
雑収入	10,000	11,679	▲ 1,679	4,508
受取利息	7,000	3,129	3,871	3,318
雑収入	3,000	8,550	▲ 5,550	1,190
ソーラーカー補助収入	0	0	0	150,000
特定目的基金取崩益	0	3,318,576	▲ 3,318,576	0
当期収入合計(A)	10,746,000	14,399,967	▲ 3,653,967	11,450,408
前期繰越収支差額(B)	23,623,862	23,623,862	0	24,009,640
収入合計(C)((A)+(B))	34,369,862	38,023,829	▲ 3,653,967	35,460,048
<b>支 出 の 部</b>				
事業費	13,660,000	11,162,583	2,497,417	8,095,985
会報制作費	1,600,000	1,613,850	▲ 13,850	1,559,250
特別企画費	3,000,000	3,932,762	▲ 932,762	3,224,008
35周年記念名簿作成費	2,000,000	1,500,000	500,000	0
エコノパワー協賛金	0	13,303	▲ 13,303	0
記念品費	2,150,000	2,133,337	16,663	2,119,950
支部活動費	3,000,000	658,231	2,341,769	72,560
広報費	150,000	0	150,000	82,500
補助金	400,000	286,600	113,400	50,000
福利費	650,000	522,000	128,000	580,525
奨学金	500,000	500,000	0	400,000
名簿改定準備金	200,000	0	200,000	0
事業雑費	10,000	2,500	7,500	7,192
会議費	1,950,000	1,335,954	614,046	1,391,952
総会費	300,000	369,011	▲ 69,011	145,100
役員会費	250,000	41,193	208,807	245,662
役員会旅費	1,400,000	925,750	474,250	1,001,190
事務費	2,620,000	2,244,463	375,537	2,284,833
人件費	450,000	450,000	0	450,000
通信印刷費	1,800,000	1,662,557	137,443	1,694,421
事務用品費	10,000	0	10,000	0
事務機器リース費	160,000	113,190	46,810	123,480
事務雑費	200,000	18,716	181,284	16,932
雑支出	40,000	3,570	36,430	47,516
慶弔費	10,000	3,570	6,430	47,516
退職者慰労金	30,000	0	30,000	0
基金財産設定支出	0	0	0	0
学友会館建設基金	0	0	0	0
奨学金積立基金	0	0	0	0
運用収入正味財産繰入	36,000	9,712	26,288	15,900
予備費	140,000	0	140,000	0
当期支出合計(D)	18,446,000	14,756,282	3,689,718	11,836,186
当期収支差額(E)((A)-(D))	▲ 7,700,000	▲ 356,315	▲ 7,343,685	▲ 385,778
次期繰越収支差額(E)+(B)	15,923,862	23,267,547	▲ 7,343,685	23,623,862

2003年度 貸借対照表

2004年7月31日現在(単位:円)

科 目	2003年度 (A)	2004年度 (B)	増 減 (B)-(A)
<b>資 産 の 部</b>			
流動資産	23,650,889	23,400,948	▲ 249,941
現金	213,466	56,559	▲ 156,907
普通預金	1,479,434	2,308,382	828,948
郵便貯金	0	2,074,971	2,074,971
ソーラーカー還征仮払金	3,000,000	0	▲ 3,000,000
定期預金	18,957,989	18,961,036	3,047
固定資産	44,542,664	41,233,800	▲ 3,308,864
特定目的資産	42,818,953	39,510,089	▲ 3,308,864
学友会館建設定期預金	27,822,868	24,510,393	▲ 3,312,475
奨学金積立定期預金	14,996,085	14,999,696	3,611
有形固定資産	1,723,711	1,723,711	0
器具備品	1,723,711	1,723,711	0
資産の合計	68,193,553	64,634,748	▲ 3,558,805
<b>負債および正味財産の部</b>			
負債	27,027	133,401	106,374
流動負債	27,027	133,401	106,374
未払金	27,027	130,401	103,374
預り金	0	3,000	▲ 3,000
正味財産	68,166,526	64,501,347	▲ 3,665,179
(うち特定目的資産)	42,818,953	39,510,089	▲ 3,308,864
(うち正味財産増加額)	▲ 369,878	▲ 3,665,179	▲ 3,295,351
負債および正味財産の合計	68,193,553	64,634,748	▲ 3,558,805

監 査 報 告 書

私たちは、会則24条の規定に基づき、中日本自動車短期大学学友会の平成15年8月1日から平成16年7月31日までの2003年度における会務の執行並びに同事業年度一般会計について監査を実施しました。

監査の結果、会務の執行は法令及び規約に従い、総会並びに役員会の議決に基づき誠実に行われており、また、上記の一般会計は適正に処理されており、各計算書類は学友会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

平成16年9月18日

監査役 鈴木泰成



監査役 可知陽之郎



2004年度

事業計画

- 総会
- 大学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 会報
- 見やすく体裁を検討する。インターネットへの移行を検討する。
- 学友会ホームページ
- 大学のホームページに做って体裁を要する。
- 内容を充実させる。
- 支部活動
- 愛知県支部の活性化に協力する。
- 岐阜県支部・三重県支部の設立をする。
- キャンパス・グッズ
- 新しいグッズを検討する。
- 活用方法を検討する。
- 学園・大学との懇談
- 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 準会員との交流
- 準会員への補助を行う。
- 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定
- 退職者記念品
- 定年退職者へ記念品を贈る。
- 卒業生記念品
- 学友会規約を配布する。
- 3000円程度の記念品を贈る。
- 奨学金
- 在学生より2名を選考し、奨学金を支給する。
- OBへの福利厚生
- 長島温泉割引を行う。
- 適切なものがあれば随時考える。
- 大学への協力体制
- 学生募集への協力をする(学友会8・12期生名簿改訂版の提供、同窓生子女推薦、広報活動でのソーラーカー貸出等)。
- 大学主催のエコノパワー大会に協賛し、学友会会長賞を出す。
- 37期生卒業式において、成績優秀者を学友会会長賞として表彰する。
- その他
- その他のソーラーカー研究活動に協力する。